

連携研究報告： 難聴を伴う知的障害幼児の教育支援に関する研究

筑波大学特別支援教育研究センターでは、附属障害児教育5校の連携による実践的研究を推進している。本テーマは、附属大塚養護学校と附属聾学校の連携により、平成17年度と平成18年度の2年間の実践的研究として取り上げてきたものである。この一部については原田(2006)が報告済みであるが、平成19年3月をもって研究を終了したので、以下のとおり報告するものである。

1. 研究の目的

知的障害養護学校幼稚部に在籍する人工内耳装用の難聴児に対する教育的支援について実践的に考察する。また、付随的には、この連携研究をとおして筑波大学特別支援教育研究センターと附属障害教育5校を連携した研究の推進システムについての検討も行うことができると考える。

2. 研究推進の方法

本研究の推進は、筑波大学特別支援教育研究センターの調整の下、附属大塚養護学校および附属聾学校の幼稚部担当者によって行われた。

指導の中心は在籍する知的障害養護学校である。ここに週に1度、聴覚的支援を専門とする聾学校の教員が在籍校に出向いて主として聴覚および言語的な側面について観察を行いながら指導に参加する体制をとった。また、学期に1度程度、関係者によるミーティングを行い意見交換し、これを指導プログラム作成に反映させることとした。

また、筑波大学特別支援教育研究センターは、附属障害教育校5校の連携を行う具体的なシステムとして5部門会議を招集しており、この会議において途中経過を報告し参加者からの評価が得られるようにした。

3. 研究成果と課題について

本連携研究の成果については、以下にあげる2つのレポートによって報告する。

レポート1

知的障害養護学校幼稚部における聴覚障害重複児の支援の取り組み－「個別の教育支援計画」に基づく日々の支援と他機関との連携－

研究担当者

高橋幸子（筑波学附属大塚特別支援学校）

上田みどり（同）

居林弘和（同）

大蔵みどり（同）

早川博（同）

梅原俊子（横浜市立本郷養護学校）

小金井俊夫（東京学芸大学附属特別支援学校）

レポート2

聴覚障害のある重複障害児の行動観察手法による聴覚評価について－知的障害を伴う人工内耳装用幼児の観察から－

研究担当者

庄司和史（筑波大学特別支援教育研究センター）

松本末男（筑波大学附属聴覚特別支援学校）

なお、2つのレポートについての対象児は同様であり、本児の保護者および関係する機関については、本研究に関して快く了解していただいている。